

2015 年度第 1 四半期決算説明会 質疑応答

- 【開催日】 2015 年 8 月 4 日（火） 16:45～17:45
- 【出席者】 常務執行役員 CFO：内野 州馬
執行役員 主計部長：増 一行
IR 部長：武久 裕

【質疑応答】

① 2015 年度の業績関連

Q. 2015 年度第 1 四半期の一過性損益の内訳。

- A. ● 一過性利益 50 億円、一過性損失▲30 億円、ネット 20 億円の利益。

Q. 各グループの進捗、並びに通期見通し。

- A. ● 金属グループでは、原料炭やアルミプレミアム市況が想定以上に下落したことにより、進捗が遅れている。生活産業グループでは、鮭鱒養殖事業における市況低迷により、低い進捗率となっている。
- 上記 2 グループを除くと、各グループとも概ね順調に進捗している。
 - 生活産業グループの収益は下期偏重傾向にあり、翌期以降で十分にカバーできる範囲内。金属グループは市況環境も厳しく、通期業績については楽観視していない。
 - 引き続き第 2 四半期以降の動向を注視する必要があるが、全社として、3,600 億円の達成は可能と見ている。

② キャッシュ・フロー、投資計画／資産入替関連

Q. 第 1 四半期の営業キャッシュ・フローの内容。

- A. ● 営業収益キャッシュ・フローは概ね例年通り。第 1 四半期は、法人税に加え、LNG 輸入消費税等の支払が発生することもあり、営業キャッシュ・フローはマイナスとなった。

Q. 第 1 四半期の投資キャッシュ・フローの内容。

- A. ● 投資は既存 LNG 事業（マレーシア）や豪州石炭事業への設備投資が中心。
- 入替は順調に進捗している。

Q. 今後の投資、資産入替の見通し。

- A. ● 第 1 四半期の投資は、既存 LNG 事業（マレーシア）の大口投資等を実行したためトップヘビーになったが、昨年度に続き、今期も「経営戦略 2015」で想定した通りに進捗している。
- 2015 年度も当初計画に沿った投資、資産入替の規模となる予定。

③ 個別事業関連

Q. 鮭鱒養殖事業の減益理由。

- A. ● 鮭鱒市況の下落によるものが大半である。
● 市況次第であるが、足元の取引価格は回復基調にある。

Q. 原料炭事業（MDP）の減益理由、並びに今後の見通し。

- A. ● 2015年度第1四半期のMDP業績は、前年同期比▲2億円となる▲39億円となった。
● 米豪為替が豪ドル安に推移していることに加え、継続実施しているコスト削減や生産性向上施策によるプラス効果が現れているものの、中国経済減速による鋼材需要の減少を背景とした価格下落により収益が悪化した。
● 一部の高コスト生産者の減産、操業停止も増えてきてはいるが、今後の価格や為替の動向次第であり、予断を許さない。

Q. 銅事業の今後の見通し。

- A. ● 期初より、価格の低迷や、チリの渇水の影響を織り込んだ計画を立てており、想定内で推移している。

Q. アジア自動車事業の状況。

- A. ● インドネシアやタイの自動車全需の落ち込みに伴い、販売台数も減少している。

④ その他

Q. 低迷する新興国の経済動向に起因するビジネスへの影響。

- A. ● 中国や新興国経済の減速に伴う与信状況を注視している。特に化学品は中国のトレーディングが多いことから、従前にも増して与信の審査体制、管理体制を高めている。

以 上